



災害時被害調査システムで効率的・着実な調査を!



『災害時被害調査システム』を活用した「**農地・農業用施設**」の被害調査

これまでの「大規模災害」時における課題

- 応援で現地調査へ行った職員は**土地勘も無く**、被災箇所の**特定に苦慮**
- 被災箇所の**調査漏れ**や**把握に手間取り**、**同一箇所**で**複数回の現地確認**が発生
- 紙資料**での情報管理により**集計、集約作業**に苦慮



タブレット端末の活用



デジカメ
調査用紙
道路地図
オルソ図



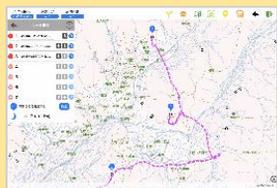
導入の効果

- タブレット端末のGPS機能により、**現在地や調査箇所**を**随時特定**
- 位置情報の一元管理により、**調査方針や効率的な調査**を実施（**漏れ、重複防止**）
- タブレット登載のオルソ図、写真撮影アプリ、被害額算定シートの連動により、**被災箇所図、被害額集計、被災状況資料**の**早期作成、集約**が可能
- 査定設計書作成に向けた**現地測量作業等への移行**がスムーズ

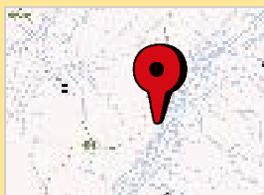
災害時被害調査システム（タブレット）の機能



①現地案内機能による移動



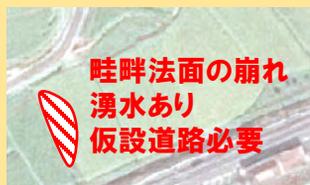
②被災箇所の登録



③被害状況等の撮影記録



④衛星・道路地図等へ描き込み



⑤被害額算定シートの入力

被害額簡易算定シート	
調査日	令和2年1月21日
調査者	test
箇所番号	2019-山口-203-203-IPad-1-1
所在地	市町 山口市 字名、地名等 test
工種	農地 壁身 田
	1.26 m
	(1.3)
	3.45 m



- 工種
農地、水路、道路 等
- 復旧工法
ブロック積、フトン籠、
排土 等
- ※目視による概ねの**被災延長・高さ**を入力

調査及びデータ集約・活用の流れ

①被害調査した情報を、共有サーバに**アップロード**

②**災害集計データベース**に登録
被災箇所、被害概要を集約

③**被害集計**や**被災状況資料**作成
迅速な報告・協議に活用



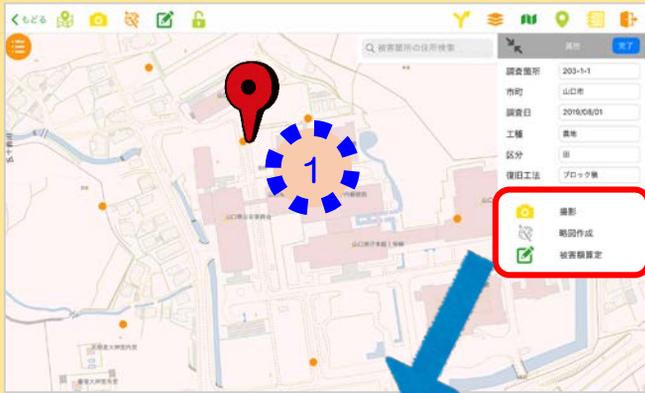
システムの詳細は、株式会社ニュージャパンレッジ（083-941-0300）まで。

災害時被害調査システム



- 登録箇所と、写真や被害額情報が紐付けされます。
- 復旧工法は基本的なもののみ、設定しています。
- 概ねの延長や高さの入力で被害額算定できます。

タブレット画面



- 2 写真撮影
- 3 略図作成
- 4 被害額算定

被害時箇所ごとのデータ



1 箇所登録



2 写真撮影



3 略図作成

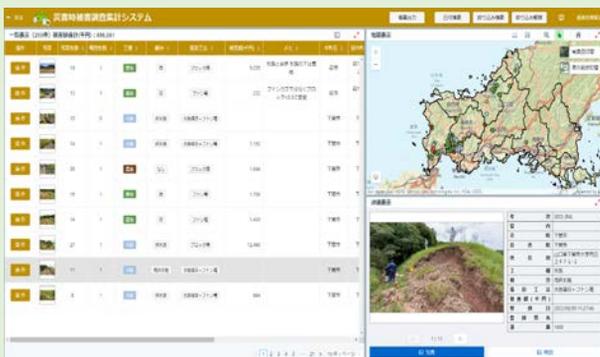


4 被害額算定



現地での作業が完了した項目はグレー表示

共有サーバ



集計システム

被害額集計



被害状況図作成

- エクセル、パワーポイントで出力できます。
- 出力後、編集作業が可能です。

報告、協議
に活用！

